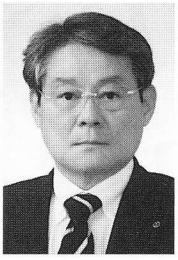
一般社団法人
仙台
オペラ協会
会報

第44号
仙台オペラ協会事務局
〒980-0012
仙台市青葉区錦町1丁目3-9
TEL&FAX.022-264-2883

会長挨拶

会長　藤﨑 三郎助


会長
藤﨑 三郎助

会員の皆さまには日頃よりご支援、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

当協会は本年、創立43年目となりました。毎年欠かさずに大規模な公演を続けているオペラ団体は全国的にも稀有な存在のようです。様々な試練を乗越えて活動を続ける為には大きな力が必要で、当協会の場合、先ず「オペラをしたい！」「地元の皆さんに聴いて頂きたい！」という演奏部会員の強い心が原動力となっています。次に大切な力が会員の皆さまを始めとする支援力。そして欠かせないのが、実際に公演に導くスタッフ力。幸いにも私どもに備わるこの3つの力を信じて今後も歴史を刻んで参りたいと思います。

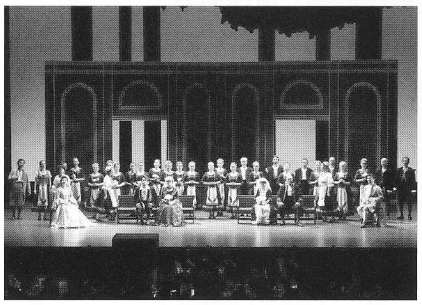
本年は2月に「オペラ名場面集」と題した春のインテルメッツォを、また6月にはホテルレオパレス仙台に於いてコンサートを行いました。いずれも成功裏に終わり、改めて感謝申し上げます。

さて、今年の本公演は「修道女アンジェリカ」と「カヴァレリア・ルスティカーナ」を二本立てで上演致します。指揮には指導力抜群の佐藤寿一氏を、演出には多彩な才能をお持ちの伊藤み弥氏をお迎えし、この美しい作品に挑みます。猛暑の中の稽古の成果を私も楽しみに拝見したいと思います。皆さまも是非、ご鑑賞下さいますようお願い致します。

「フィガロの結婚」報告

芸術監督　佐藤 淳一

「フィガロの結婚」は仙台オペラ協会にとって大切なレパートリーであり、40年の歴史の中で一番多くの公演を行っている。「フィガロ」の指揮は、昨年度の「ヘンゼルとグレーテル」でご一緒した時から是非船橋洋介先生にお願いしたいと思い、次回のモーツァルト作品は、「ドン・ジョヴァンニ」の演出をしていただいた渡部ギュウさんにお願いしたいと思い、その結果何かが覚醒し、とても興味深い「フィガロ」の公演とすることが出来た。船橋氏の挑戦的な想いから、普段はカットするアリアもカットせずに全曲演奏。また船橋氏には指揮とチェンバロの両方での出演をお願いし、ギュウさんにも役者として一場面登場していただくというアイディアもあったが、こちらは残念ながら実現しなかった。今回は伯爵役として、私たちメンバーの齋藤翠さんのご主人である江原実氏と藤原歌劇団から水野洋助氏に、フィガロ役を山形オペラ協会の鈴木集氏に加わっていただき、大きな刺激をいただいた。皆さんのオペラに対する取り組み方から、我々に足りないものをたくさん学ばせていただくことにもなった。



フィガロ マルチェリーナを演じて

鬼澤 梨沙

第15期生研究生を経て、2017年4月にオペラ協会準会員として入会させていただきました。そこで早速回ってきたのが『フィガロ』のマルチェリーナです。「喧嘩の二重唱」などは教材として学んだことはありましたが、譜面を見た時のはじめの印象は「果たして自分に可能なのか」でした。(特にアリアが…)しかしながら素晴らしいマエストロ、コルペティ、演出家のもとでの貴重な稽古で、尊敬する先輩方に学びながら、無事本番に臨むことが出来ました。気高く、タフで、且つ母の深い愛を兼ね備えるその濃い役もかなり難題でしたが、とてもやりがいがあり、楽しく勉強させていただきました。この度は舞台での貴重な機会を下さり、また支えてくださった方々へ本当に感謝を申し上げます。有り難うございました。

フィガロを演じて

野崎 貴男

「フィガロの結婚」の楽譜は、私がこれまでに関わった公演の楽譜の中で、最もページ数が多く、最も重い楽譜でした。稽古が始まるのも例年と比べて2ヶ月以上も早く、今思い出すと、とにかく長い時間を掛けて準備してきた演目でした。なかでも私が一番苦労したのは2幕の最初にある10ページもある長～いレチタティーヴォでした。これを覚えるために運転中や入浴中など、ずーっとぶつぶつぶつぶつ小声でつぶやいていたのは、今となっては良い思い出です。出演者が多いことも「フィガロの結婚」の魅力でした。稽古を通してたくさんのことを学ばせていただき、充実した毎日でした。

予告

インテルメッツォのお知らせ

「春のインテルメッツォ2019」

期日　2019年2/16(土)

会場　太白区文化センター楽楽楽ホール(予定)

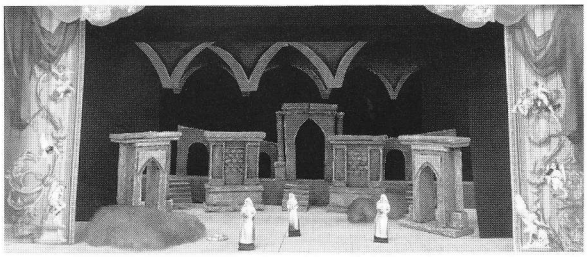
演目
「あまんじゃくとうりこひめ」台本 若林一郎　作曲 林光
「だんまりくらべ」台本 小松直子　作曲 片岡良和

本公演迫る！「修道女アンジェリカ／カヴァレリア・ルスティカーナ」

今年の本公演は、異なった作曲家による作品をカップリングし、一つの公演としてお届けします。

「修道女アンジェリカ」は、プッチーニの三部作の一つ。本協会では、3回目の上演。間奏曲があまりにも有名な「カヴァレリア・ルスティカーナ」は、2度目の上演となります。

両作品とも一幕もの、1時間余りの上演時間ですが、それぞれの作曲家の個性と音楽が、テーマに沿って凝縮された素晴らしい作品です。聴きごたえのあるアリア、アンサンブル、迫力あるオーケストラ、シリアスなストーリー展開、そしてふんだんに盛り込まれた合唱の活躍！（結成2回目の本公演を迎える仙台オペラ協会合唱団の見せ場！）チラシやポスターにデザインされている両若手、相羽紗希（サントゥッツァ）とマリ・ヒューレット（アンジェリカ）にも期待がかかります。



演出家

伊藤 み弥

宮城県出身。東北大学文学部西洋美術史専攻卒業。演劇を宮田慶子氏（青年座／前・新国立劇場芸術監督）に師事。日本演出者協会会員。現在、震災復興支援団体での仕事をしながら舞台の演出や企画制作に携わる。〈おもな仕事〉SENDAI座プロジェクト演劇公演『ハイ・ライフ』『十二人の怒れる男』ほか演出。杜の都の演劇祭『星の王子さま』『トカトントン』ほか演出。第3回国連防災世界会議仙台開催直前イベント総合ディレクター。震災演劇『ファミリーツリー』プロデューサー。

皆様はじめまして。このたび人生初のグランドオペラ演出を仰せつかり、青天の霹靂とはまさにこのことだな、と日々痛感しております。

さて、『アンジェリカ』と『カヴァレリア』、この二つを並べると「静と動」、「夜と昼」、「聖と俗」など対蹠的なイメージが浮かびますし、主人公も清純な修道女と情熱的なシチリア女という正反対な二人に見えます。

しかし、彼女らは同じセリフを口にしています。曰く、「Io sono dannata（私は地獄に落ちた）」。深い絶望と罪の意識に苛まれる似た者同士なのです。その絶望の切っ先を自分に向けたアンジェリカと恋人に向けたサントゥッツァ。

文楽や歌舞伎をも思わせる「一途な女の悲しみ」はともすると古風に見えるかもしれません。現代に生きる皆さんは何を受けとめ、どう観るのでしょうか。

指揮者から

佐藤 寿一

カヴァレリア・ルスティカーナの登場人物は在郷的因習、貧困、愛欲に囚われ振り回されるありきたりの人間として描かれます。そのことでこの作品はヴェリズモオペラの代表作と見なされています。アンジェリカは模範的修道女という設定です。それなのにあまりにも人間臭い母性愛の為に神の創造を否定する行為、自死に走ってしまう姿を描くことでこの作品もまたヴェリズモオペラの範疇にあります。

人の心の中に渦巻く複雑怪奇な心理が織りなすスリリングなストーリー展開と、厚い響きのオーケストラを伴う情熱的な音楽はこの二つの作品をくり返し何度でも観たいと思わせます。イタリアオペラ傑作の一翼を担うこの二演目をどうぞお楽しみください。

出演者

相羽 紗希

純粋で、感情をストレートに表現する人間味溢れるサントゥッツァ。劇的で美しい音楽に乗って悲しみや苦しみ、嫉妬の炎に燃える彼女の様々な心模様を演じられるよう自分自身思い切り楽しみたいと思います。

マリ・ヒューレット

「アンジェリカ」とは天使を意味する名前であり、本作のアンジェリカも天使の様にピュアな心を持ち、修道院生活の描写や曲の調べに彼女の心が映し出されています。

そんな彼女の生活に暗い影を落とす過去の出来事。過去と決別するため、彼女はどんな決断を下すのでしょう。

ゲスト

佐藤 直幸

東京藝術大学音楽学部声楽科、同大学院音楽研究科修士課程修了。在学中より大学内外の演奏会やオペラに出演し、大学院修了後、ミュージカル、コンサートにも活動の幅をひろげている。2016年7月、世界的アーティスト、サラ・ブライトマンの来日ツアー『Sara Brightman gala concert 2016』全6都市11公演でバックコーラスを務める。テレビ東京「THEカラオケ★バトル」出演！コーラスグループ『アンサンブル・コノハ』メンバー

田舎の騎士道というシチリアに伝わる古い慣習によって悲劇の結末を迎える男女の愛憎劇をトゥリッドゥを通して演じます。美しい曲はもちろんですが、トゥリッドゥの思惑、心情の変化、そして苦悩をどう表現していくのか、見所です。

仙台オペラ協会合唱団の活動

オペラに華を！～仙台オペラ合唱団～

専属のオペラ合唱団として二年目になります。

「今年の演目は何かしら？」「わあ、カヴァレリアだわ！私たちの魅力を存分に発揮できるんじゃなくて？」「ええ、そうね。男声の居酒屋での村人役もいい味出せるわね、きっと。」「そうよ、ダテに日頃飲んだくれているわけじゃないのよ。」「そうよ、すべては役作りのためだったのよ。」「わあ、素敵！」

サントウッツアのリードから始まる敬虔で壮麗な合唱、修道女の清らかさと神聖な存在感などオペラに華を添えるパフォーマンスとなるよう努めさせていただきます。ご期待ください！

新・演奏部会員

菅原 史帆（ソプラノ）

宮城県宮城第一高等学校卒業。京都女子大学音楽教育学専攻卒業。同大学卒業演奏会出演。富谷市立富谷中学校常勤講師を経て、現在(公財)宮城県文化振興財団勤務。声楽を児玉祐子、高橋真美、鈴木誠、佐藤順子各氏に師事。仙台オペラ協会第15期研究生修了。宮城学院女子大学音楽教室研究コース在籍　2017年修了コンサート開催。

まだまだ勉強中の身ですが、憧れの会員のみなさんに教わりながら楽しく歌っていきたいです！ご指導よろしくお願いいたします。

研究生活動報告

15期生報告

第15期生、最終発表会は、3月31日に行われた。演目は、ヨハン・シュトラウスⅡ作曲の「こうもり」より。台詞は日本語で、歌は原語での演奏。アデーレ役に菅原史帆さん、ロザリンデ役に萩野結さん、アイゼンシュタインに野崎貴男さん(助演)。途中、菅原史帆さんの約2ヶ月間の入院欠席があり、練習も危ぶまれたが、その後はスピード感ある練習となり、無事修了となった。アデーレの楽し気な表情や動きも、前にも増して成長が感じられた。ロザリンデも堂々とした奥様ぶりで、この2年間で歌唱力に磨きがかかったようだ。助演の野崎さんにも、大変支えられた。今後のお二人の新しい活躍に期待したい。

（文：佐藤順子）

16期生報告

第16期生は、ソプラノの吉田香奈さんとテノールの今泉翔仁さんの2名で、相羽紗希さん(助演)と一緒に、「オルフェオとエウリディーチェ」の二重唱・三重唱を研究した。二人とも難しいレチタティーヴォをこつこつと勉強して、前期発表会ではすばらしい演奏を聞かせてくれた。後期になって今泉さんにご不幸が重なり本人も体調を崩したため、代役を佐藤雅也さん(当時宮教大4年生)にお願いした。発表会まで2ヶ月もなかったが、代役の佐藤さんも、相方が変わった吉田さんも積極的に研究に励み、助演相羽さんの支えもあって、後期発表会では完成度の高い演奏ができた。

（文：應和恵子）

17期生報告

今期、第17期生は、女声ソプラノ2名。テキストは、モーツァルト作曲「コジ・ファン・トゥッテ」より。フィオルディリージに佐藤豊子、ドラベッラに加藤雅子。レチタティーヴォ、二重唱を中心に、前期は日本語、コンサート形式で、後期は同場面を原語で、演技を付けて演奏する。

（文：佐藤順子）

17期生プロフィール

佐藤 豊子

中学よりフルートを愛好。畠山千亜紀氏の下で声楽を始め、現在、仙台オペラ協会合唱団に所属。東日本大震災の経験から、音楽の力で、人々に元気を与えられるような歌い手を目標にしています。宜しくお願い致します。

加藤 雅子

五十路過ぎてからのオペラファンです。自分も歌いたいと声楽を習い始めて半年余り。4月に転勤して来て初めての仙台でオペラ協会研修生として参加出来る事とても嬉しいです。舞台に立てる日を夢見て頑張ります。

平成30年度総会開催

去る6月2日（土）ホテルレオパレス仙台に於いて社員総会が開催され、全議案異議なく承認されました。また、今年度は役員改選の年ですが、全役員再任でお願いすることになりました。

総会後の「懇親パーティー＆スペシャルサンクスコンサート」では、賛助会員のみなさんをはじめ、多くの方に楽しいひと時を過ごしていただきました。

平成29年度事業報告（主なもの）

6月10日	理事会・定時社員総会
7月17日	グリーンプラザ「ふれあいコンサート」出演
8月1日	会報第43号発行
9月2・3日	第42回公演「フィガロの結婚」
9月16日	泉マルシェコンサートに出演
9月17日	山形オペラコンサートに出演
9月30日	せんくらコンサートに出演
10月18日	文化庁震災復興のための芸術家派遣事業に出演（仙台市青葉区落合はぐくみ保育園）
12月26日	〃　（松島町松島児童館）
2月4日	2018春のインテルメッツォ公演

平成30年度事業計画（主なもの）

5月4・5日	東北歴史博物館「多賀・光の多面体」～古代と現代を結ぶオペラティックナイトに合唱出演
6月2日	理事会・定時社員総会
7月16日	グリーンプラザ「ふれあいコンサート」出演
8月1日	会報44号発行
9月1・2日	第43回公演「修道女アンジェリカ／カヴァレリア・ルスティカーナ」
2月16日	春のインテルメッツォ公演
3月末	第16・17期研究生後期合同発表会

＊ 各種の出演依頼には、積極的に応じる
＊ 会員加入の促進に努める

役員紹介

会長	藤崎 三郎助	藤崎代表取締役社長
副会長	一力 雅彦	河北新報社代表取締役社長
〃	亀井 淳一	カメイ専務取締役
理事	相沢 光哉	宮城県議会議員
〃	姉歯 けい子	オペラ協会演奏部会員
〃	大泉 勉	宮城教育大学名誉教授
〃	應和 惠子	オペラ協会演奏部会員
〃	佐藤 淳一	オペラ協会演奏部会員
〃	鈴木 誠	オペラ協会演奏部会員
〃	高野 光子	ホテルベルエア会長
〃	八木 洵	エイトリー　社長
監事	熊谷 眞人	税理士
〃	三島 卓郎	弁護士
顧問	亀井 昭伍	前オペラ協会会長
〃	青木 茂之	前オペラ協会副会長
事務局長	庄子 真希	

仙台オペラ協会平成29年度 損益計算書

収入の部　（単位＝円）

〈科目〉	〈決算額〉	〈備考〉
会費計	2,992,000	
(賛助会員個人)	740,000	
(賛助会員法人)	430,000	
(社員会費)	560,000	(演奏部会員)
(研究生会費)	180,000	
(合唱団会費)	1,082,000	
入場料計	10,897,335	
(本公演)	9,441,075	
(インテルメッツォ)	1,456,260	
広告費	1,890,000	
共催金	2,500,000	県文化振興財団・市市民文化事業団
助成金	4,691,000	芸術文化振興基金3,191千円 朝日新聞文化財団 20万円 花王芸術・科学財団40万円 カメイ社会教育振興財団 30万円 三菱UFJ信託芸術文化財団60万円
業務受託料	370,000	文化庁派遣事業出演他
寄付	3,166,950	協賛金、臨時会費等
受取利息	9	
雑収入	598,714	総会時コンサート会費等
収入合計	27,106,008	

支出の部　（単位＝円）

〈科目〉	〈決算額〉	〈備考〉
出演費	5,460,593	指揮、オーケストラ演奏料等
音楽費	1,293,284	稽古ピアノ費、楽譜代等
文芸費	1,542,539	演出、舞台監督費等
会場費	2,870,765	公演会場費
賃借費	782,545	稽古場借料等
舞台費	5,580,272	大道具、照明、音響費等
謝金	523,170	チラシデザイン料等
事務用品費	74,337	プリンターインク代等
印刷費	1,084,673	プログラム、チラシ等印刷代
記録費	415,800	記録写真、録画費等
福利厚生費	11,430	労災保険料等
通信費	283,918	郵便料等
水道光熱費	159,800	事務局電気、ガス、水道代
旅費交通費	1,239,420	出演者交通費、ホテル代等
租税公課	296,600	消費税、法人市民税等
広告宣伝費	679,168	新聞広告、ポスター掲示費等
会議費	284,285	総会、理事会経費等
制作諸経費	287,112	スタッフ弁当代等
運搬費	120,000	大道具運搬費
消耗品費	5,173	紙代、テープ代等
家賃	232,889	事務局家賃
事務委託費	240,000	事務協力員経費
賃金	3,110,800	事務局員人件費等
リース料	113,022	コピー機リース料
支払手数料	41,443	銀行等振込手数料等
雑費	254,495	ドリンクコーナー経費等
減価償却費	170,000	衣装等
借入金返済	0	
予備費	0	
支出合計	27,157,533	＊51,525円の赤字です。

平成30年度収支予算書

収入の部　（単位＝円）

〈科目〉	〈予算額〉
前期繰越金	400,000
会費計	3,200,000
(賛助会員個人)	800,000
(賛助会員法人)	500,000
(社員会費)	600,000
(研究生会費)	300,000
(合唱団会費)	1,000,000
入場料計	11,100,975
(本公演)	9,300,975
(インテルメッツォ)	1,800,000
広告費	2,000,000
共催金	2,500,000
助成金	7,100,000
業務受託料	500,000
寄付	2,500,000
受取利息	100
雑収入・未収金	745,972
収入合計	30,047,047

支出の部　（単位＝円）

〈科目〉	〈予算額〉
出演費	5,350,000
音楽費	1,920,000
文芸費	1,640,000
会場費	3,100,000
賃借費	880,000
舞台費	6,990,000
謝金	490,000
事務用品費	65,000
印刷費	1,120,000
記録費	520,000
福利厚生費	12,000
通信費	270,000
水道光熱費	160,000
旅費交通費	890,000
租税公課	300,000
広告宣伝費	1,200,000
会議費	260,000
制作諸経費	290,000
運搬費	120,000
消耗品費	11,000
家賃	240,000
事務委託費	0
賃金	3,370,000
リース料	120,000
支払手数料	45,000
雑費	250,000
前期未払金	223,900
借入金返済	0
予備費	210,147
支出合計	30,047,047

編集後記

本公演「アンジェリカ／カヴァレリア」の演出・伊藤み弥さんのもとで演出助手を務めています。今回は、両作品とも“ヴェリズモ”。現実主義の作品だけあって、み弥さんの心理描写の細かい要求に、応える歌い手たちも四苦八苦。いい勉強になっています。ご覧になる皆さんにも、伝わる公演ができるといいなぁ…。（鈴木 誠）

☆会費納入のお願い☆　本年度会費が未納の方は、お早めに納入くださいますようお願いいたします。